

指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第18集

県営畑地帯農道網整備事業宮十石地区に伴う
埋蔵文化財詳細分布調査

鳥山遺跡Ⅱ

1995年3月

鹿児島県指宿市教育委員会

序 文

本書は、周知の埋蔵文化財包蔵地「鳥山遺跡」において行われた詳細分布調査の成果をまとめたものです。

調査成果の主なものを挙げますと、後期旧石器時代から縄文時代早期の遺物を包含すると考えられる地層が確認されました。今回は残念ながら時代を代表する指標となるような出土遺物はございませんでしたが、周辺の探査を行うことで今から1万年以上の前の旧石器時代人達の生活の一部を垣間見ることが出来ると考えられます。

また、縄文時代早期の包含層から掘り込まれたと考えられます遺構も検出されました。

今回の詳細分布調査により、鳥山遺跡の価値がますます高められたものと確認すると同時に、本書が皆様に活用され、将来に守り伝えられるべき鳥山遺跡の適切な保存に役立てられることを願ってやみません。

この詳細分布調査に御協力を賜りました鹿児島県耕地事務所の皆様、そして諸機関の先生方をはじめ、御協力を頂いた関係各位および地元の方々に対して厚く御礼を申し上げます。

平成7年3月31日

指宿市教育委員会教育長

中 村 利 廣

例 言

1. この報告書は、平成6年9月12日から平成6年9月26日まで実施した、鹿児島県指宿市新西方鳥山に所在する鳥山遺跡の詳細分布調査報告書である。
2. 本詳細分布調査の費用909,049円は鹿児島県耕地事務所が699,968円を、指宿市が209,081円を負担した。
3. 本詳細分布調査および整理・報告書作成は指宿市教育委員会が実施し、詳細分布調査は下山覚、中摩浩太郎、渡部徹也、鎌田洋昭が担当した。
4. 整理・報告書作成は鎌田洋昭が主に実施し、遺構・遺物の原図作成・整図については、その責を明らかにするために目次に作成者名を記す。なお、原図作成者を◎、トレース実施者を⊗と表記する。
5. 写真撮影、図版作成及び、現場関係は鎌田洋昭が行った。
6. 本書の執筆・編集は鎌田洋昭が行った。
7. 本書中のレベルはすべて絶対高である。また、図中に用いられている座標は公共国土座標系第9系に準ずる。
8. 本書中の土層の色調名及び表記は「標準土色帖」1990年版に基づく。
9. 実測図、遺構図の表記凡例は「橋牟礼川遺跡Ⅲ」（1992、指宿市教育委員会）に準ずる。
10. 鳥山遺跡の地層については、鹿児島県立申木野高等学校教諭の成尾英二先生に御指導を賜わった。記して感謝の意を表したい。
11. 鳥山遺跡周辺の測量は、(有)埋蔵文化財サポートシステムの御協力を賜わった。記して感謝の意を表したい。

目 次

本 文 目 次

第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第1節 詳細分布調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	2
第Ⅲ章 詳細分布調査	7
第1節 トレンチの設定	7
第2節 遺跡の層序	7
第3節 1トレンチの調査	10
第4節 2トレンチの調査	12
第5節 3トレンチの調査	14
第6節 4トレンチの調査	18
第7節 5トレンチの調査	20
第Ⅳ章 詳細分布調査の成果について	22

挿 図 目 次

第1図 鳥山遺跡位置図 (s = 1/50,000) (整鎌田)	2
第2図 詳細分布調査地点位置図① (s = 1/25,000) (整鎌田)	3
第3図 詳細分布調査地点および周辺図 (s = 1/400) (原鎌田整鎌田)	4
第4図 詳細分布調査地点位置図② (s = 1/250) (原埋蔵文化財 s s ・中摩整鎌田)	6
第5図 鳥山遺跡層位模式図 (原鎌田整鎌田)	8
第6図 1トレンチ完掘状況図 (s = 1/500) (原鎌田・東屋敷・吉富整上高原・清・新小田)	10
第7図 1トレンチ西壁・地壁土層断面実測図 (s = 1/20) (原鎌田整同上)	11
第8図 2トレンチ完掘状況図 (s = 1/500) (原鎌田・東屋敷・吉富整同上)	12
第9図 2トレンチ南壁・西壁土層断面実測図 (s = 1/20) (原鎌田整同上)	13
第10図 3トレンチ完掘状況図 (s = 1/500) (原鎌田・東屋敷・吉富整同上)	14
第11図 3トレンチ東壁・南壁土層断面図 (s = 1/20) (原鎌田・東屋敷・吉富整同上)	15
第12図 3トレンチ第12層上面検出遺構平面・断面実測図 (s = 1/20) (原鎌田整同上)	16
第13図 4トレンチ完掘状況図 (s = 1/500) (原鎌田・東屋敷・吉富整同上)	18
第14図 4トレンチ北壁・東壁土層断面実測図 (s = 1/20) (原鎌田整同上)	19
第15図 5トレンチ完掘状況図 (s = 1/500) (原鎌田・東屋敷・吉富整同上)	20
第16図 5トレンチ西壁・北壁土層断面実測図 (s = 1/20) (原鎌田整同上)	21

図 版 目 次

PL 1	鳥山遺跡を周辺から望む（南側・北東方向より）	9
PL 2	3トレンチ第12層上面遺構検出状況	17
PL 3	鳥山遺跡周辺写真・2トレンチ調査状況	23
PL 4	3・4・5トレンチ調査状況	24

表 目 次

第1表	鳥山地区確認調査の概要	5
-----	-------------	---

第Ⅰ章 調査に至る経緯

第1節 詳細分布調査に至る経緯

鳥山遺跡は昭和54年度に県営畑地帯総合土地改良事業に伴い、鹿児島県文化課により確認調査が行われ、広い範囲に縄文時代早期から古墳時代までの良好な遺物包含層が広がっていることが確認され、初めて周知化された。その折に、県文化課と鹿児島県耕地事務所と協議が行われ、周知の遺跡地内で工事を行う際には県文化課と協議を行うことの実施を決めている。

平成6年度、鹿児島県耕地事務所では宮・十石地区畑かん農道整備事業の最終年度を迎え、砂利敷き農道の舗装化に伴い、周知の遺跡の範囲内であったため確認調査を行う必要となった。

平成6年7月11日に県文化課において、鹿児島県耕地事務所、県文化課、指宿市耕地課、同市教育委員会による四者協議が行われ、宮・十石地区農道整備事業に伴う6号支線（280m：鳥山遺跡内）の埋蔵文化財の取り扱いは以下のように決められた。

。工事予定地内は、重機および4名の作業員で、指宿市教育委員会が主体となり詳細分布調査を行う。トレンチは20mおきに10ヶ所程設定を行い、遺構面、遺物包含層の内容と現地表面からそれまでの深さを確認すること。

。詳細分布調査の結果に基づき、遺構、遺物包含層が確認された折には、遺物包含層まで掘削が届かないように簡易舗装で工事を行うこと。

。詳細分布調査費については、平成5年度に鹿児島県耕地事務所・耕地課事業による「ふるさと農道整備事業」と同様に、市教育委員会が23%の負担を行うこと。

。市教育委員会は調査のみを行い、調査に伴う土地借り上げや交通規制等の地元の説明は、耕地事務所で行うこと。

（文責 鎌田）

第2節 調査の組織

詳細分布調査の組織は以下のとおりである。

詳細分布調査主体	指宿市教育委員会	
詳細分布調査責任者	指宿市教育委員会教育長	中村 利 廣
詳細分布調査担当者	指宿市社会教育課長	山澤 郁 夫
	指宿市社会教育課社会教育係長	尾 辻 隆
	指宿市社会教育課派遣社会教育主事	塩 入 俊 実
	指宿市社会教育課文化係長	久 保 憲一郎
	指宿市社会教育課主査	大久保 正 一
	指宿市社会教育課主事	宮 原 智 子
詳細分布調査員	指宿市社会教育課主事	下 山 覚
	同 上	中 摩 浩太郎
	同 上	渡 部 徹 也
	指宿市社会教育課主事補	鎌 田 洋 昭
詳細分布調査作業員	東屋敷 雅・吉富 功・池元 昭雄	
整 理 作 業 員	上高原信子・清 秀子・新小田香代子・徳留逸子・前田恵子	

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

指宿市は、九州本土薩摩半島の最南端に位置している。指宿市の北部は田貫川を境にして喜入町と接し、西部は標高200m前後の山々を境界として穎娃町と接している。西南には、九州最大のカルデラ湖である池田湖があり、それを境に開聞町・山川町と接し、池田湖の外輪山から東部を眺めると錦江湾が眼下に広がり大隅半島を望むことが出来る。

指宿市の地形は山地、台地、平野、湖沼と大きく4つに分けられる。⁽¹⁾ その一つである池田湖は、今から約5,500年前に活動し、その火山性噴出物は指宿地方の地形形成の一大要因となっており、鳥山遺跡が所在する台地の基盤層でもある。

今回詳細分布調査を行った地形は、丘陵および台地、これらを開折する大小の谷により形成されている。西側には、細田東地区から蛇行する舟木川と合流して東流し、錦江湾に注ぐ湊川が蛇流している。また、西側傾斜地を下り舟木川を渡ると新西方の集落にたどり着ける。

東側には十石遺跡が所在する十石集落と隣接し、南側には標高80mの丘陵により宮ノ前遺跡等が点在する台地と隔たれている。また、北側は急斜面をもって岩本台地と隣接している。⁽²⁾

調査地点の周辺は、昭和54年度に鹿児島県教育庁文化課により県営畑地帯総合土地改良事業に伴う確認調査が実施されている。その折には28の小字地区に4×4mもしくは3×3mのトレンチを35ヶ所設け、遺跡の有無を確認するための確認調査が行われた。(第3図を参照) その結果、十石・鳥山地域が縄文時代早期から古墳時代までの良好な複合遺跡であることが確認された。⁽³⁾

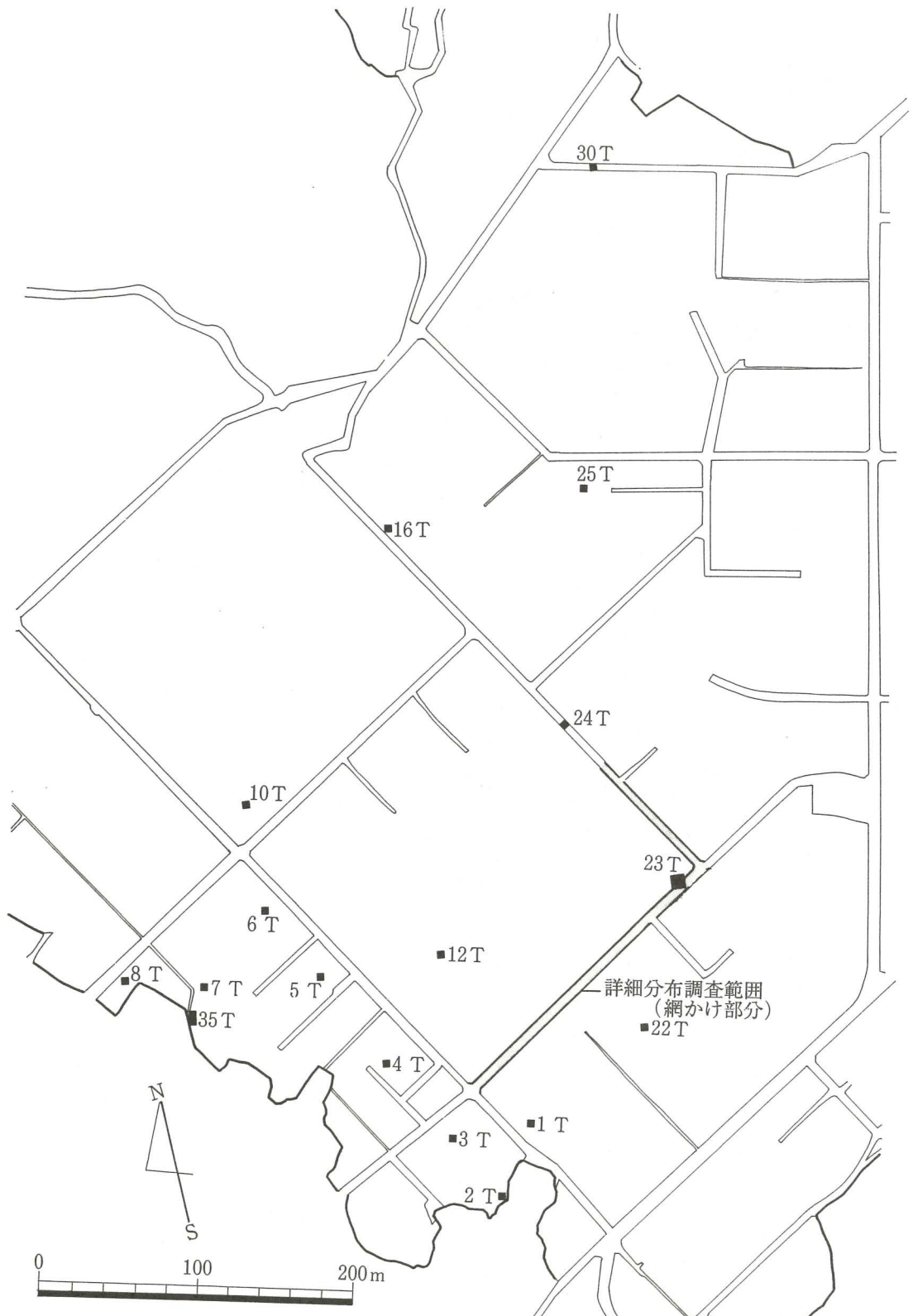
今回、指宿市教育委員会により詳細分布調査が行われた地点は、早馬迫の小字名を有しており、周辺に西原、西原道畑、権現迫、渡瀬ノ上、西原堀内、早馬迫頭が隣接している。



第1図 鳥山遺跡位置図 (s=1/50,000)



第2図 詳細分布調査地点位置図① (s=1/25,000)



トレンチ(○T)は昭和54年度の確認調査地点である。
 第3図 詳細分布調査地点および周辺図 (s=1/400)

鳥山遺跡の早馬迫地点は、昭和54年度に1・2・21・22・23トレンチの5ヶ所において確認調査が行われ、各々成果を上げている。

1トレンチは、4×4mの面積において入戸火砕流（第15層）まで掘り下げを行い、茶褐色火山灰層（第12層）上部より塞ノ神式土器が出土している。わずかに2点であったが、この周辺に縄文時代早期の集落が広がっていることが伺える。

2トレンチからは、成川式土器が含まれる良好な遺物包含層（第4層）が確認された。

21トレンチは4×4mの面積で調査が行われ、現在「サツマ火山灰」と称される火山性噴出物が含まれている含黄色軽石黒色腐植土（第13層）まで掘り下げているが、遺物は出土していない。

また、調査範囲の路線延長上に小字西原に設定された24トレンチがあり、ここでは弥生時代の土器片が少量出土している。

22トレンチからは、地表面からわずか50cmの深さより弥生土器が出土している。

23トレンチは当初他のトレンチ同様に4×4mの範囲であったが、火山礫を含む暗褐色腐植土（第5層）上面に弥生時代前期の遺物が出土したため約300㎡に拡張を行っている。その結果、弥生時代前期後葉から中期中葉までの甕形土器・壺形土器、石器等が多量に出土している。

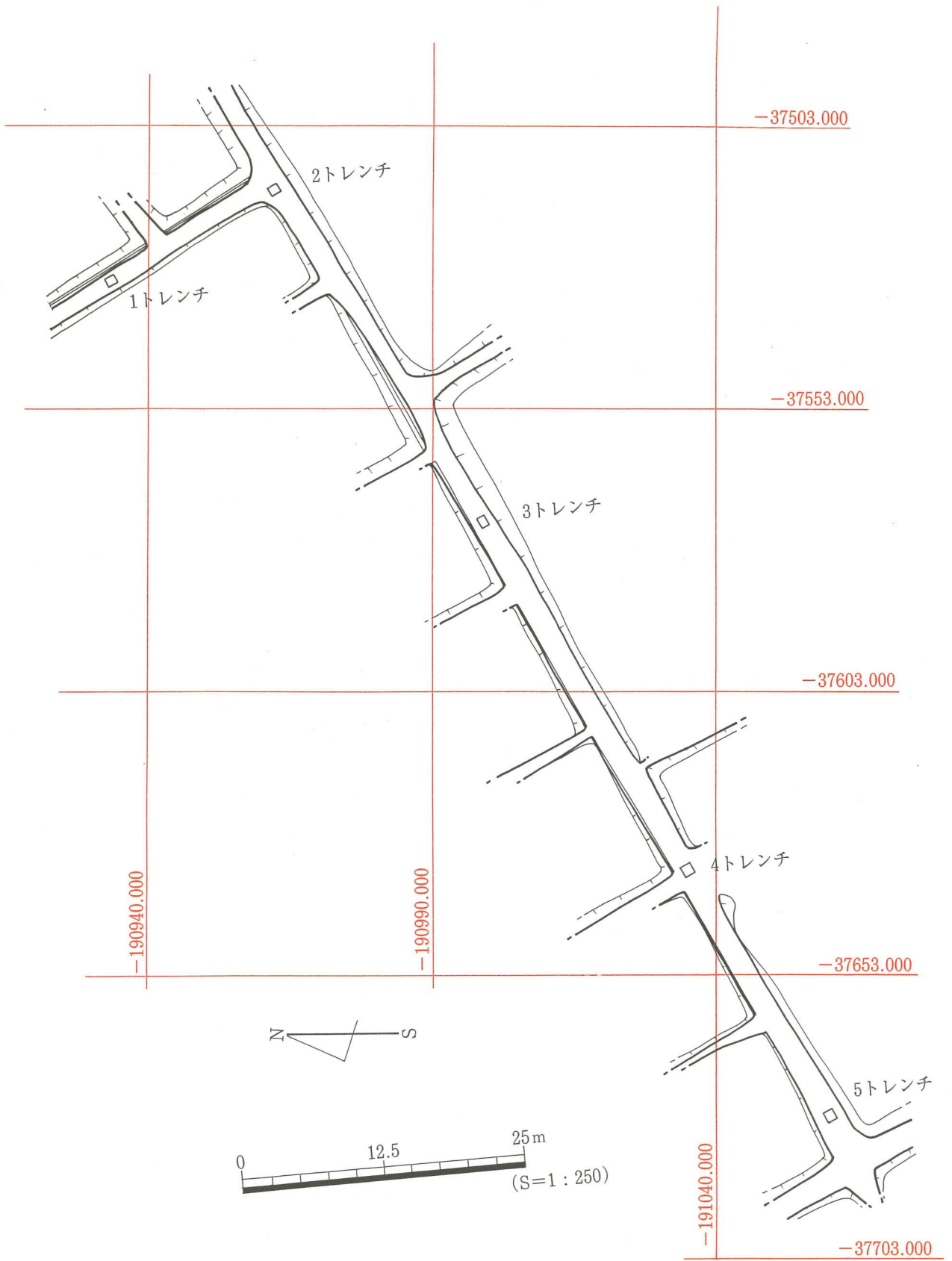
報告書では、甕形土器と壺形土器をそれぞれⅠ類からⅢ類に分類し、各々について説明を行っている。石器は、大形・中形・小形に分類を行い、器種としては偏平打製（石斧）石器、石匙が図面上で報告されている。

前回、鹿児島県教育庁文化課により確認調査が行われた結果（第1表参照）⁽⁴⁾により、今回指宿市教育委員会が詳細分布調査を行った調査範囲は、縄文時代早期、弥生時代前期～中期、古墳時代の遺物を包含する層が確認できると予想される地点である。（文責 鎌田）

- (1) 指宿市誌編さん室『第1編第2章 指宿地方の自然環境』「指宿市誌」 1985
- (2) 指宿市誌編さん室『第2編 指宿市の歴史』「指宿市誌」 1985
- (3) 指宿市教育委員会「鳥山地区」 1980
- (4) 指宿市教育委員会「鳥山地区」1980の第3表トレンチ調査の概要を一部改変

トレンチ	小字名	面積㎡	遺物	出土層位
1	早馬迫	16	縄文早期土器（塞ノ神式）	第12層上部
2	早馬迫	16	成川式土器	第4層
21	早馬迫	16	なし	—
22	早馬迫	16	弥生土器	第4層
23	早馬迫	300	弥生前期・中期土器	第5層上面
3	西原道畑	16	縄文早期土器（塞ノ神式）・石匙・円礫	第12層
4	西原道畑	16	成川式土器	第2層
12	西原道畑	16	縄文時代（石鏃・剝片・円礫）	第12層
5	西原迫	16	弥生土器・成川式土器	第4層／第2層
7	西原迫	24	縄文早期・晩期土器・弥生土器	第5・6層／第4層
8	西原迫	64	弥生土器・石斧・成川式土器	第4層／第2層
35	西原迫	48	縄文晩期土器・弥生土器・成川式土器	第4～5層
10	中迫	16	縄文時代（剝片・円礫）	第7層
16	鳥添	16	縄文早期土器	第12層
24	西原	16	弥生土器	不明
25	十石平	16	成川式土器	黒褐色土

第1表 鳥山地区確認調査の概要



第4図 詳細分布調査地点位置図② (s=1/250)

第Ⅲ章 詳細分布調査

第1節 トレンチの設定

今回、県営畑地整備事業に伴う詳細分布調査を行う際に、 2×2 mもしくは 2×1.5 mの広さのトレンチ（試掘杭）を設定した。設定地が西側の谷地へ下る傾斜地の農道の為、地層の傾斜方向や遺物包含層を全体的に把握する手段として、なるべく均等に設定されるように100m前後の距離を置いて、計5ヶ所のトレンチを設定した。（第4図を参照）

第2節 遺跡の層序（第5図参照）

鳥山遺跡では昭和54年度の鹿児島県教育庁文化課により行われた確認調査の際では、中世黒色帯（第2層の含火山レキ帯黒色腐植土）から唐山火山噴出物堆積層まで確認され、18層に分層されている。^① 今回の詳細分布調査での5ヶ所のトレンチの掘り下げの結果、池田湖を起源とする火山性噴出物（第8層）から、2万4千年頃、始良カルデラを起源とする火山性噴出物（第15・16層）まで確認された。すなわち、池田湖の火山性噴出物堆積後の遺物包含層は全く確認出来なかった。昭和54年度の23トレンチの確認調査では、開聞岳の火山灰や弥生・古墳時代の包含層が確認されていることから、前回の確認調査後工事等で遺物包含層を攪乱・除去されたことが伺える。

以下、鳥山遺跡の報告（1980）の際の層序番号に従い、今回確認された層序について説明を行う。

第1層：いわゆる表土層であり、砂利敷きの農道のため、砂利層が硬く引き締まっている。その下層にはシラス等の客土が堆積しており、前記の層を1 a層、当層を1 b層と細分することが出来る。

第2層から第7層まで、当調査地点では欠落している。

第8層：約5,500～5,700年前頃に、池田湖を起源として噴出した火山性噴出物層である。

a層：いわゆる小牧火山層であるが、今回は確認されなかった。

b層：池田火砕流である。白色火山灰の基質をもち、5～10cm前後の白色軽石が無秩序に混入している。この上部に流水による二次堆積層が確認出来る。2.5Y8/8

c層：池崎火山灰である。黄白色火山灰の火山灰であり、小角礫も多数混入している。

第9層：黒色粘質土層（黒色腐植土）である。粒子は細かく、粘質に富んでいる。7.5YR3/2

第10層：鬼界カルデラを起源とする火山性噴出物堆積層である。^②

a層：いわゆるアカホヤ火山灰層であり、下部にいくに従い粒子が荒くなる。

b層：軽石濃集層。軽石は平均直径1.5cm位で、白色歪円形である。

c層：幸屋火砕流。基質はガラス質火山灰で、それらの中に石罅の泡状によく発泡した軽石を含む。

d層：幸屋降下軽石。角張ったオレンジ色を呈した軽石により成層される。下部にいくに従いサクサクする。2.5Y8/8

なお、第10層の上層にa層の風化土壌が確認されている。

第11層：乳白色火山灰。この調査区では確認出来なかった。よって、今回第11層として、第10層

下部に確認された黒色粘質土層の呼称とする。第11層は粒子が細かく、粘質に富み、やや軟質である。2トレンチでは、第11層が第10層に対してふき上がる液状化現象が確認出来た。

第12層：茶褐色粘質土層。第11層より粘質に富んでいるが、若干、色調的には薄い。10YR5/3

第13層：約1万1千年前に、桜島を起源とする火山性噴出物である軽石を混入する黒褐色粘質土層である。軽石は10YR7/1の色調を呈する。

第14層：茶褐色粘質土層。非常に粘質が強く、下部にいくに従い黒味を帯びるようである。

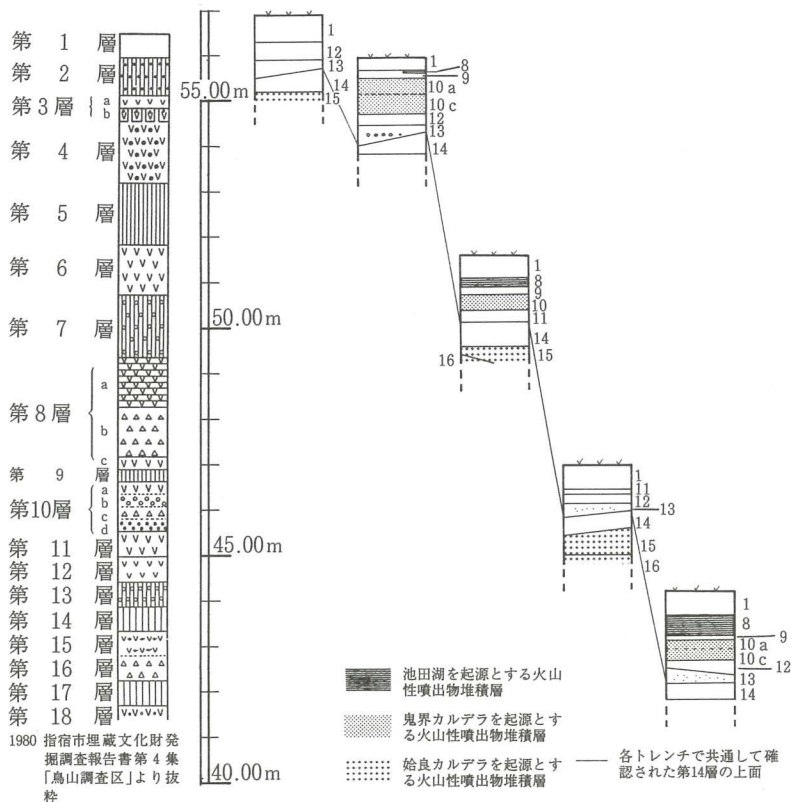
10YR6/6・5/6

第15層：始良カルデラを起源とする火山性噴出物堆積層である。前回の確認調査では、第15・16層の2層に分層してある。第15層は風化茶褐色火山灰層で、粘質はさほどなくガラス質が確認される。

第16層：入戸火砕流。いわゆるシラスと称されるもので、風化して茶橙色を示す。部分的には下部に大隅降下軽石層が堆積している。(文責 鎌田)

(1) 指宿市教育委員会 【第3節-2 層序】「鳥山遺跡」 1980

(2) 町田洋・新井房夫 「火山灰アトラス」 東京大学出版会 1992

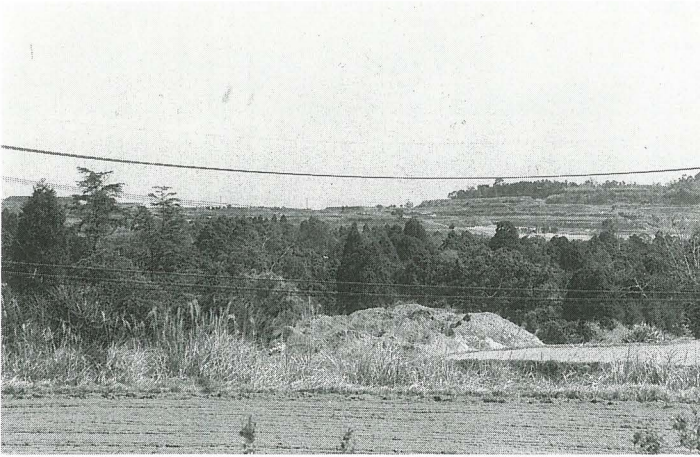


第5図 鳥山遺跡層位模式図

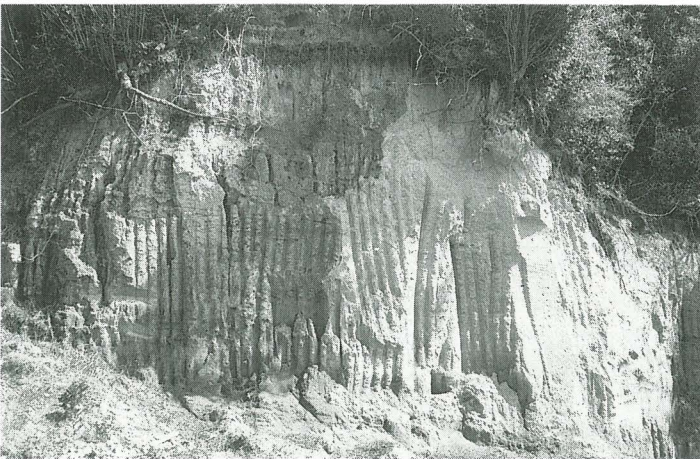


南側より鳥山遺跡を望む

舟木川を越え新西方の畑かんが
広がり、その後ろに高江山(232
m)の裾が見える。
その後ろには吉見山、尾巡山、
唐牧岳が望める。



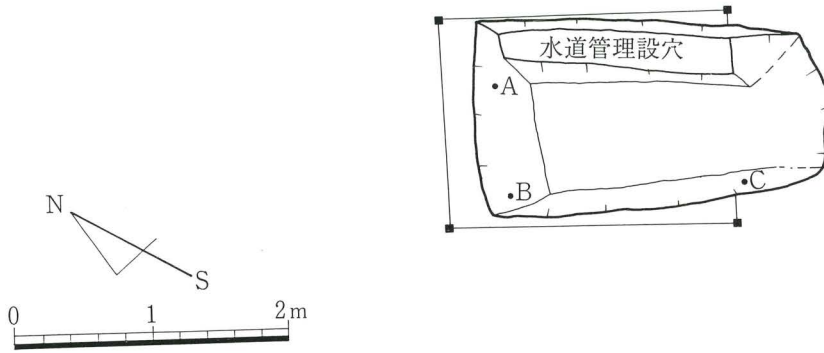
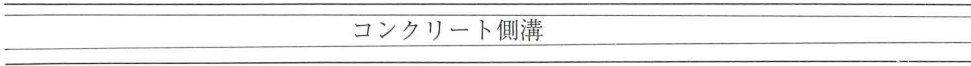
新西方より北東方向に鳥山遺跡
を望む



舟木川東岸壁面で観察出来る
池田湖起源の火山性堆積物
(池田火砕流)

第3節 1 トレンチの調査

□ 基準クイ



第6図 1 トレンチ完掘状況図 (s = 1 / 500)

1 トレンチは、L字形の調査区範囲で標高的に最も高い位置にあり、最北端に設定されたものである。昭和54年度の確認調査の際、設定された24トレンチと隣接しており、24トレンチ同様、弥生時代の良好な遺物包含層を検出することが出来ると予想された。

2 × 1.5mの面積で掘り下げを行い、その過程で表土層やシラスの客土は重機を使用し、調査期間の短縮化を図った。

現地表面から50cmの深さより、鬼界カルデラを起源とする火山性噴出物堆積層直下の第12層、茶褐色火山灰層が最大70cmの厚さをもって南側へ傾斜しながら堆積している。

第12層と同様な傾斜で第13層（黒褐色粘質土層）、第14層（茶褐色粘質土層）が堆積していることが確認された。

縄文時代早期の遺物包含層である第12層の探査を行ったが、遺物は出土しなかった。

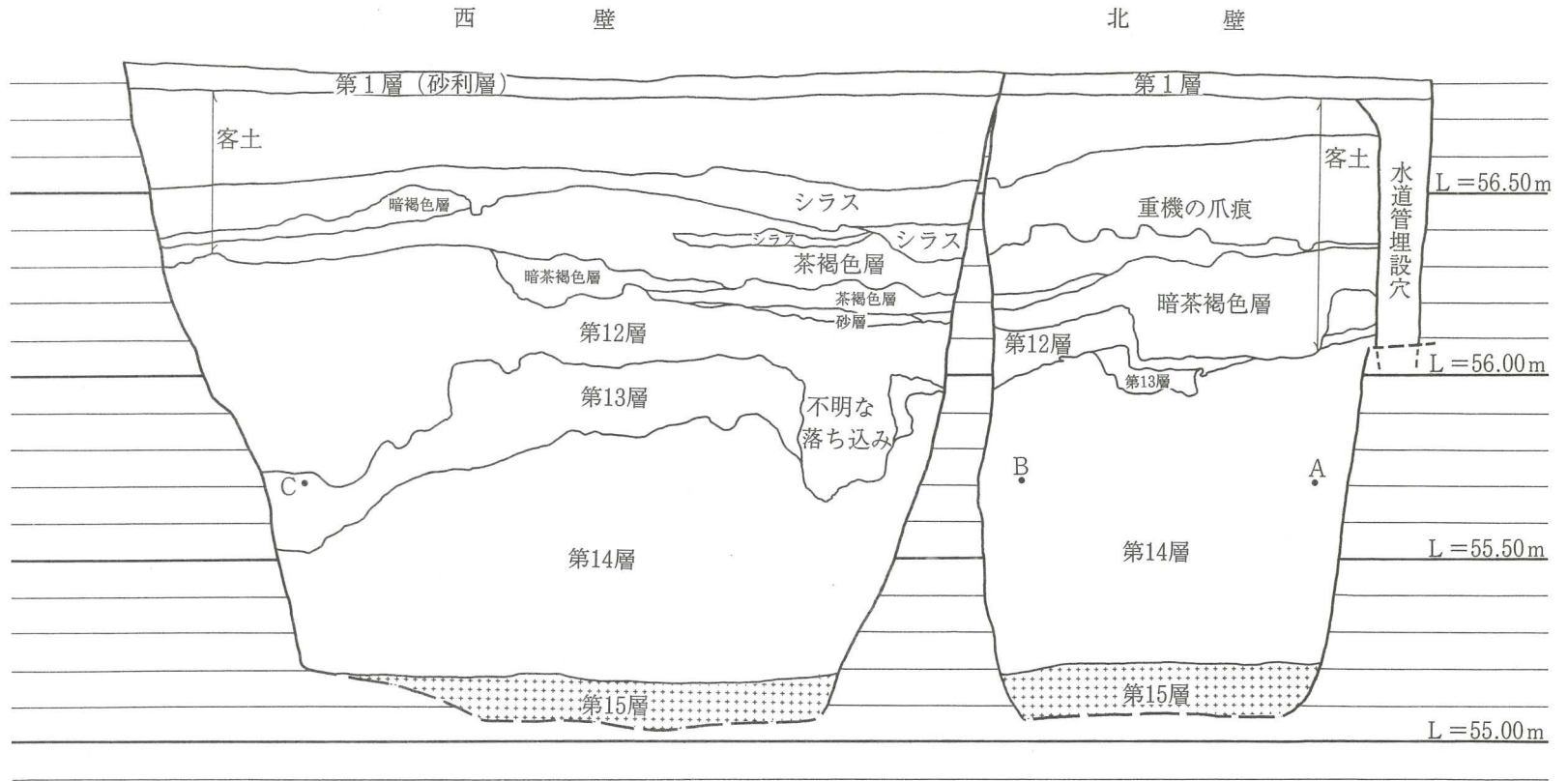
西壁断面において第13層は約30cmの厚さを確認したが、北壁では第12層と第14層との間に、ブロックの状況で若干、堆積が認められるのみであった。遺物は出土しなかった。

第14層は、1 トレンチの土層堆積の中で最も厚く堆積しており、最大90cmを測る。非常に粘質が強く、あるレベルで軽石が確認されている。細分層が可能と考えられ、下部にいくに従い黒味が強くなるようである。遺物は出土しなかった。

現地表面から1 m70cmの深さより、第15層の始良カルデラを起源とする火山性噴出物が堆積していることが確認され、20cmの厚さを確認後掘り下げを終了した。

昭和59年度段階で確認された弥生時代の遺物包含層、及び池田湖・鬼界カルデラの火山性噴出物は欠落していることが分かった。おそらく、何らかの理由で厚くその土層を削り取り、シラスを客土として厚く引き締め、農道として利用していたと考えられる。

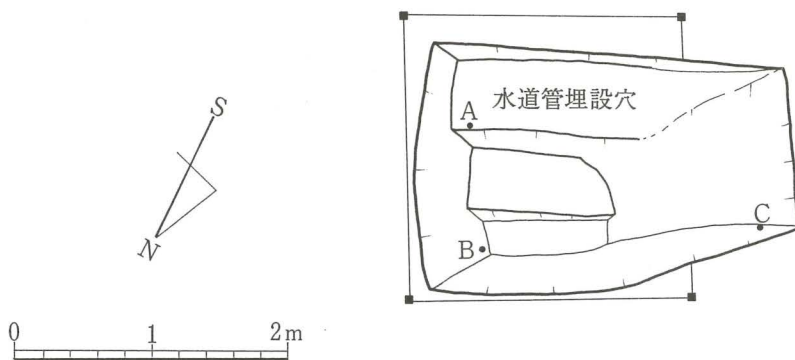
(文責 鎌田)



第7図 1トレンチ西壁・北壁土層断面実測図 (s=1/20)

第4節 2 トレンチの調査

・基準クイ



第8図 2 トレンチ完掘状況図(s=1/500)

2 トレンチは、L字形の農道において角の位置にあり、昭和54年度の確認調査で設定された23トレンチと非常に隣接している。よって、23トレンチで確認されたと同様な弥生時代前期～中期の良好な遺物包含層を検出することが予想され、慎重に掘り下げを行った。

2×2mの面積で、深さ4m30cmまで掘り下げを行った結果、1トレンチと同様に弥生時代の包含層は欠落しており、第8層の池田湖を起源とする火山性噴出物堆積層から確認することが出来た。

第8層下部、第9層の黑色粘質土層が第10層との境がインボリューションがあるものの、比較的厚く堆積していたが、遺物は出土しなかった。

鬼界カルデラを起源とする火山性噴出物が80cm位の厚さをもって堆積しており、その成層構造から2層に分層が出来た。a層がいわゆるアカホヤ火山灰層で、c層が幸屋火砕流である。

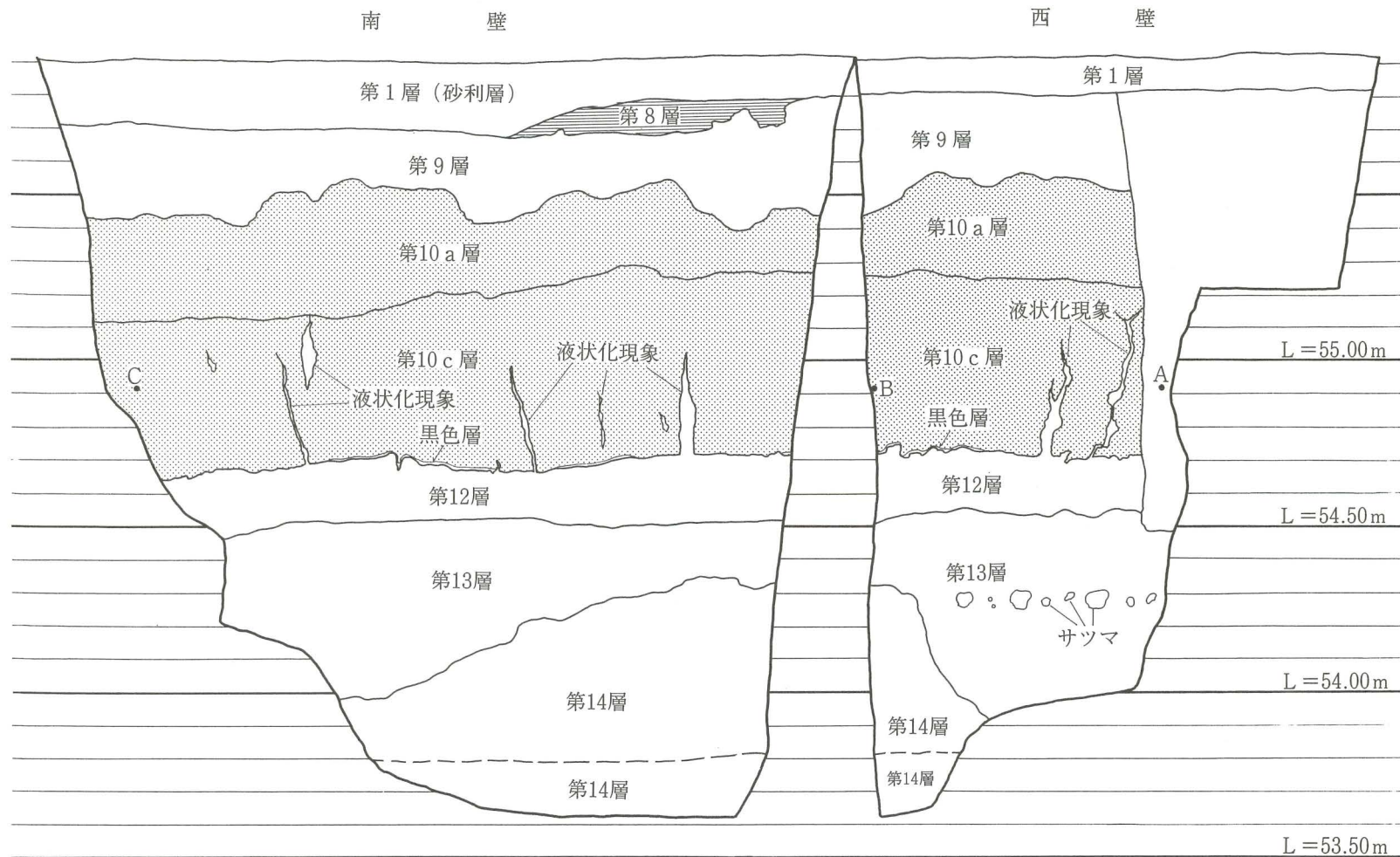
特記する点として、第10c層に第12層が噴砂状況のように噴き上がっており、地震もしくは火山性地震に伴う液状化現象として捉えることが可能であろう。⁽¹⁾ この液状化現象の時代や原因となった自然現象の特定は、第12層が当時の地表面まで達していないことから特定は出来ない。なお、第10c層下部に、3mmほどの黑色層が確認され植物の炭化したものと考えられる。⁽²⁾

西壁において、第13層中部に桜島を起源とする火山性噴出物の軽石が層としてではなく、ブロックの状況で同レベルに堆積している。

2 トレンチでは第14層が下部にいくに従い黒味を帯びる層まで下げたが遺物は出土しなかった。

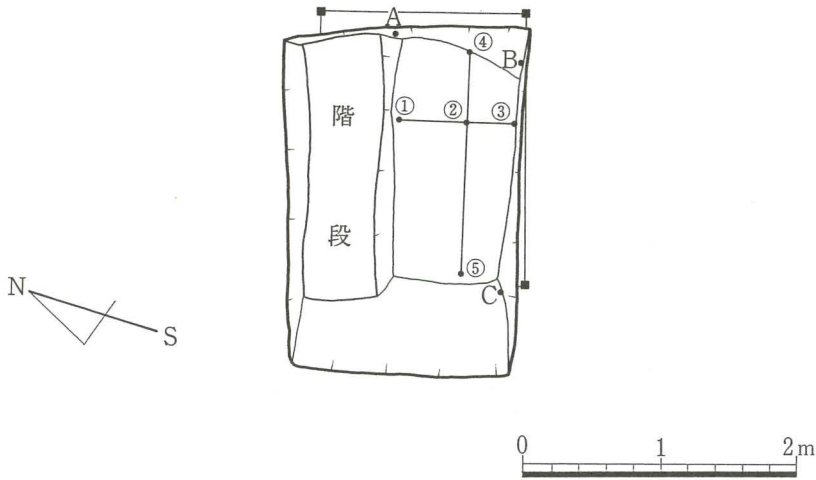
(文責 鎌田)

(1)・(2) 鹿児島県立串木野高等学校教諭の成尾英仁氏により御教示を賜った。



第9図 2 トレンチ南壁・西壁土層断面実測図 (s=1/20)

第5節 3 トレンチの調査



第10図 3 トレンチ完掘状況図 (s = 1 / 500)

3 トレンチは、調査範囲において標高的に中間に位置している。

トレンチを設定した周辺の地形から、東側からの傾斜が一旦狭い範囲で平坦になっており（一部 3 トレンチを設定した南側に畑かんを行う以前の自然地形が残っていることから推測）、良好な遺物包含層が残されていると予想された。

2 × 1.5mの調査面積において、現地表面から 2 m40cmの深さまで掘り下げを行い、遺物包含層の探査と地層の堆積状況の確認を行った。

現地表面から約50cmまでは、シラス等の客土が厚く堆積しており、他のトレンチ同様に開聞岳の火山灰層や平安・古墳・弥生時代の遺物包含層は欠落していた。

客土の除去後、第8層である池田湖を起源とする火山性噴出物が堆積しており、厚いところで約30cmを測る。第8層の下層に黒色粘質土層で、アカホヤ火山灰と第8層との間の包含層である第9層を確認した。細かな探査を行ったが遺物は出土しなかった。

現地表面から 1 mほどの深さに、第10層の鬼界カルデラを起源とする幸屋降下軽石が堆積しており、南壁において第12層との境は非常にインボリューションが認められ、不安定であると思われた。

第10層の下層にあるべき、縄文時代早期（昭和54年には塞ノ神式土器が出土）の遺物包含層が、このトレンチでは確認されなかった。

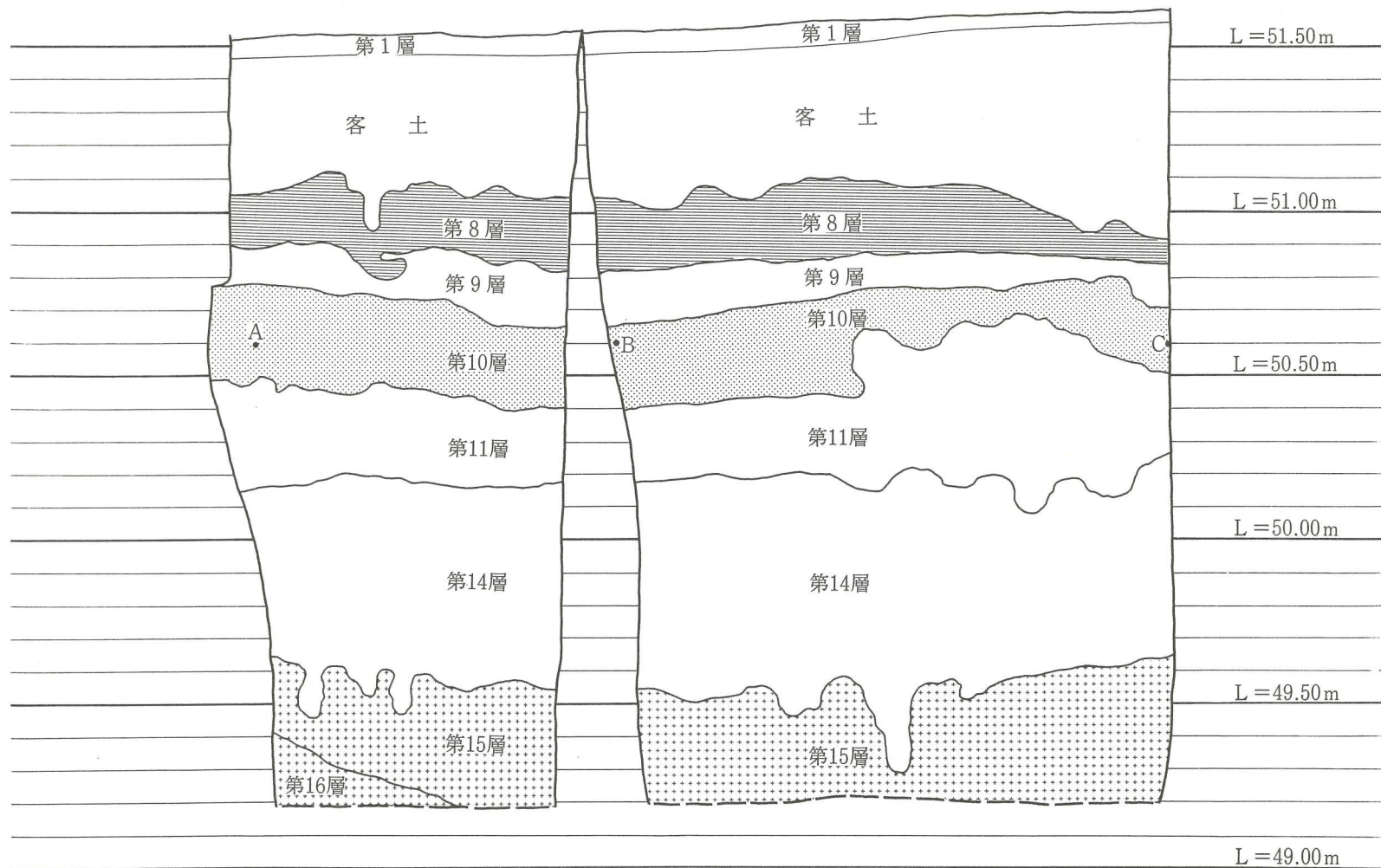
第12層が25～40cmの厚さをもって第10層の直下層として堆積している。この第12層上面で面的に清掃を行った結果、トレンチ北東側端に第10層が不安定な状態で落ち込んでいることが分かった。（写真2を参照）なお、この第10層の落ち込みについての詳細は後に述べる。

第14層は安定した堆積であることが確認し、遺物の探査を行ったが遺物は出土しなかった。第15層との境はインボリューションが認められる。

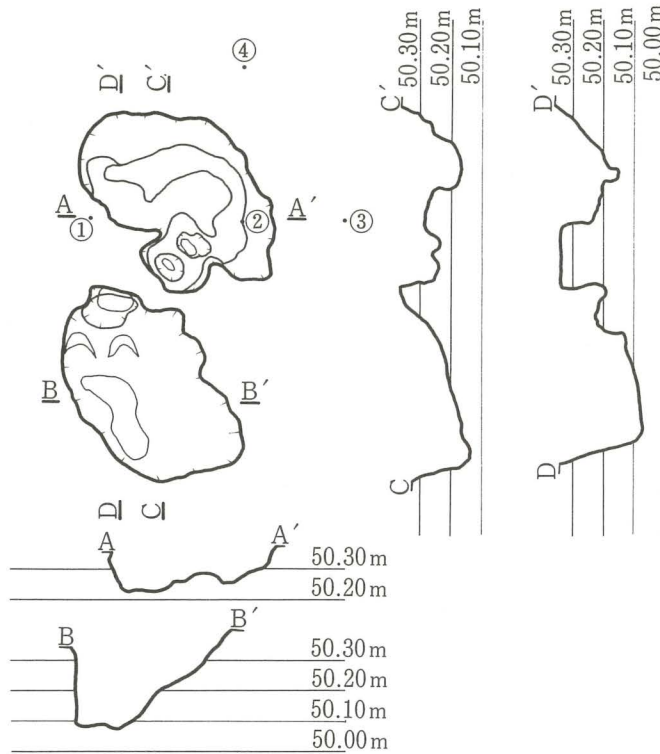
現地表面から約 2 mの深さより、始良カルデラを起源とする始良丹山火山灰層（第15層）と、入戸火砕流堆積層（第16層）を確認した。今回の 5ヶ所のトレンチを設定した中で、入戸火砕流の堆

東 壁

南 壁



第11図 3トレンチ東壁・南壁土層断面実測図 (s=1/20)



第12図 第12層上面検出遺構平面・断面実測図 (s = 1/20)

を確認したのはこの3トレンチと4トレンチのみである。

第16層は、東壁土層断面実測図の堆積状況からだと、東から西へするどい傾斜をもっているが、本来の傾斜方向は不明である。

第12層上面検出の遺構について（第12図を参照）

鬼界カルデラを起源とする幸屋降下軽石層の第10層を除去後、第12層上面で面を整え、トレンチの北東端において、2ヶ所の不安定な第10層が落ち込んでいる部分を検出した。この段階で、何らかの人工的な掘り込みに対して、幸屋火砕流が入り込んだ可能性が考えられた為、それぞれ十字にベルトを残し第10層の除去を行った。

第10層は、検出面より10cmから39cmの深さに入り込んでおり、掘り下げ後の第12層の下部は凹凸が激しく、何に伴う遺構かは不明であった。

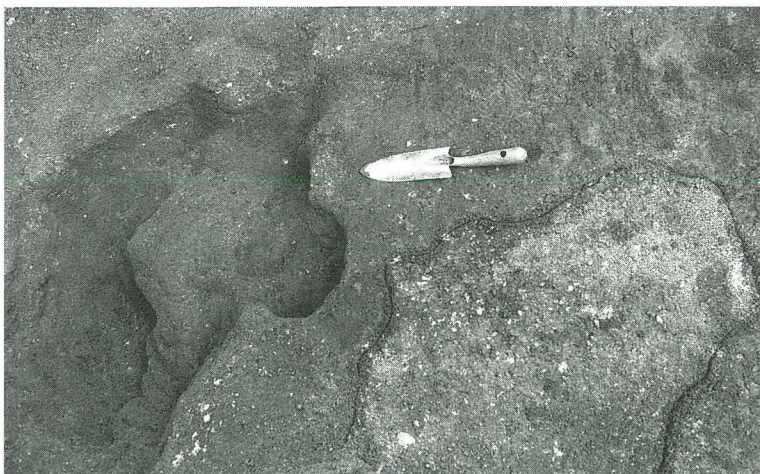
2つの落ち込みは途中で継がることも無く各々独立しているが、その下場の形態は統一性が認められない。仮に樹木等が腐植後に第10層が入り込んだとすれば、下場が末広がりになるはずであり、その可能性はない。落ち込んでいた第10層はサンプルとして持ち帰っており、将来的に科学的分析を行う必要がある。（文責 鎌田）



第12層上面遺構検出状況

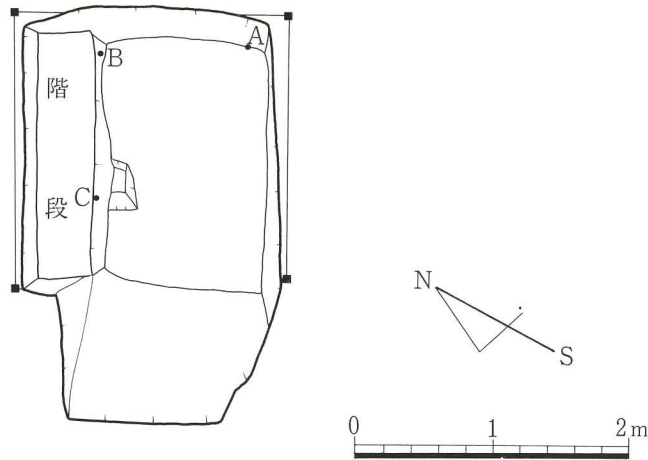


第12層上面遺構検出状況
第10層が埋土として入り込んでいる。



北側第10層（埋土）の除去
完了状況

第6節 4 トレンチの調査



第13図 4 トレンチ完掘状況図 (s = 1/500)

4 トレンチは、昭和54年の確認調査で設定された12トレンチ（第12層中から、タンパク石を素材とする石鏃、剥片、碎片が出土し、安山岩製の亜円礫も1点であるが出土している）と標高的に同レベルであり、同時代・同層包含層が南側にも広がっているか否かが確認できると考えられた。

2 × 2 mの調査区を設け、掘り下げを行い遺物包含層の探査を行った。

現地表面から70cmの深さまでシラス等を客土として用いており、以前の畑かん工事の重機の爪跡が第11層面まで達している。池田湖や鬼界カルデラを起源とする火山性噴出物堆積層である第8層や第9層は欠落していると同時に古墳・弥生・縄文時代の遺物包含層も失われていることが確認された。

第11層から第13層まで遺物は出土しなかった。

第14層の下部まで掘り下げを行った結果、北壁断面において第13層が埋土として入り込んでいる遺構を検出した。第15層の遺物探査を行いながら、その遺構の下場が確認出来るまで一部、深掘りを行った。（第14図北壁土層断面実測図を参照）

その結果、遺構の掘り方は第16層中まで掘り込まれており、はっきりとした立ち上がりのライン引きが出来なかった。掘り込み面は、その埋土の入り方から第13層中であることが確認される。

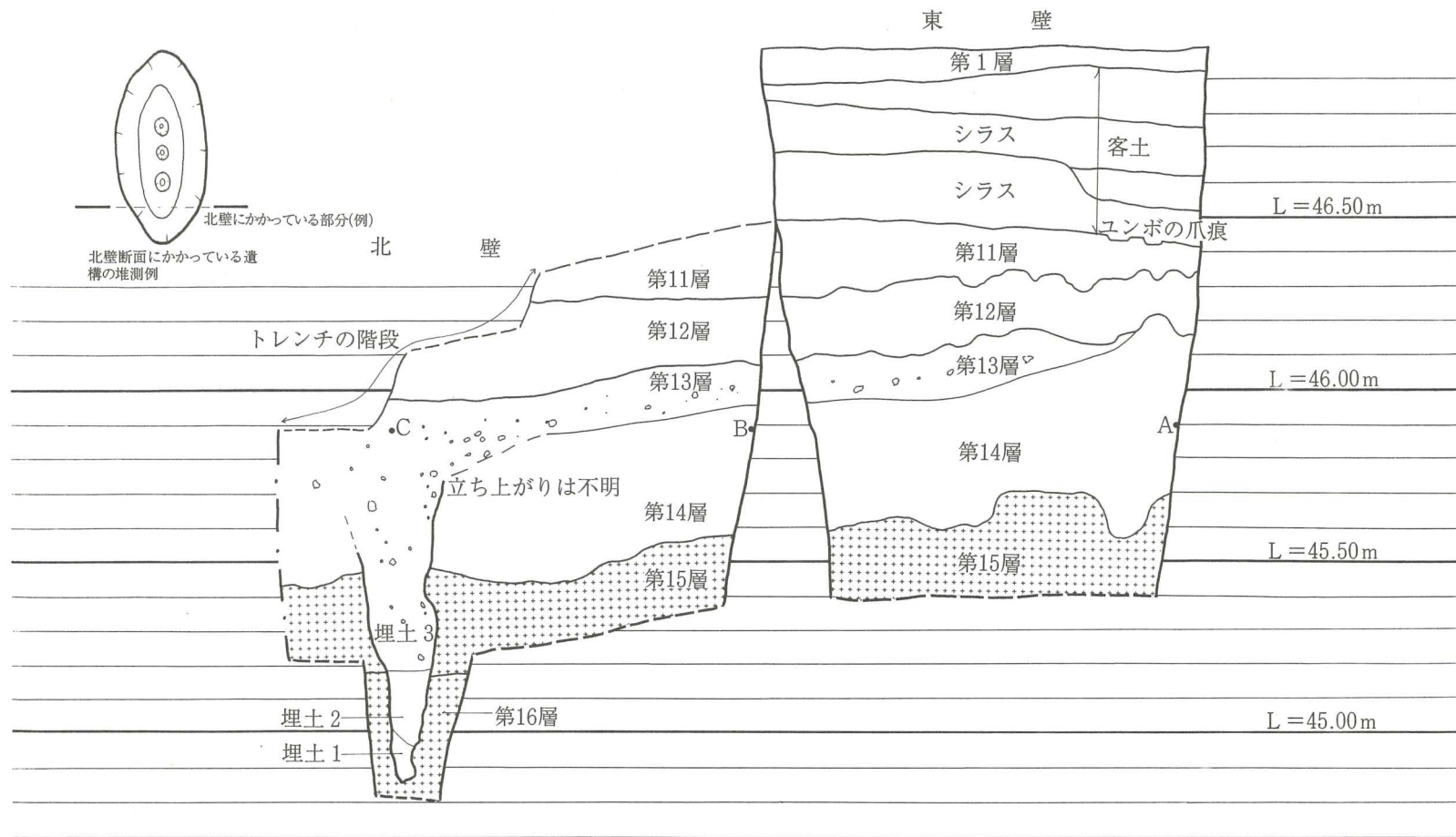
なお、埋土は以下のように分層が可能であった。

埋土1：第13層と第14層が混在しており、軟質層である。上部はスコリアが凹状の堆積が見れる。

埋土2：軟質層であり、色調は黒褐色を呈する。層質的には第12層に類似している。

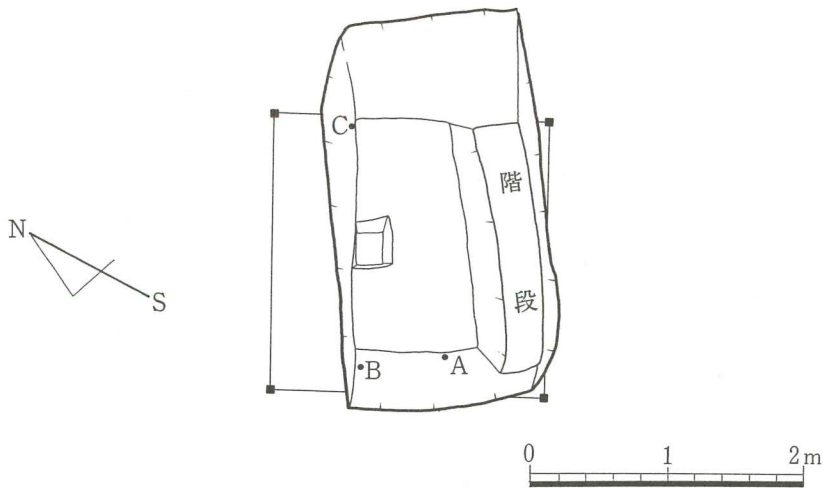
埋土3：茶褐色粘質土層であり非常に粘質を持ち、かつ、軟質である。

この遺構に関しては、断面形態からの見解であるが、ピットと仮定した場合、一部オーバーハングしており、深さも約1mを測るためその可能性は低い。推測の域を出ないが、落とし穴の端部の断面と考えられることは出来ないだろうか。本来は長軸・短軸ともに大きく、その短軸の端もしくは直軸の一部が北壁にかかっているものと推測する。（第14図を参照）（文責 鎌田）



第14図 4 トレンチ北壁・東壁土層断面実測図 (s=1/20)

第7節 5トレンチの調査



第15図 5トレンチ完掘状況図 (s = 1/500)

5トレンチは、今回、5ヶ所設定されたトレンチの中で最も標高的に低い位置に位置している。昭和54年度の確認調査の折に設定された1トレンチ・3トレンチに隣接している。1・3トレンチでは縄文時代早期包含層中から塞ノ神式土器が出土していることから、仮に、鬼界カルデラを起源とする火山性噴出物堆積層（第10層）の下層に位置する、縄文時代早期包含層が残存しているならば、このトレンチからも同様な遺物が出土する可能性が強かった。

2×2mの面積で掘り下げを行った結果、現地表面から2m50cmの深さから第14層まで確認することが出来た。

第1層（砂利層）。シラスの客土層を除去後、池田湖を起源とする火山性噴出物堆積層である第8層が確認された。約50cmの厚さをもっており、第8層上部には池田火砕流の二次堆積層が認められた。

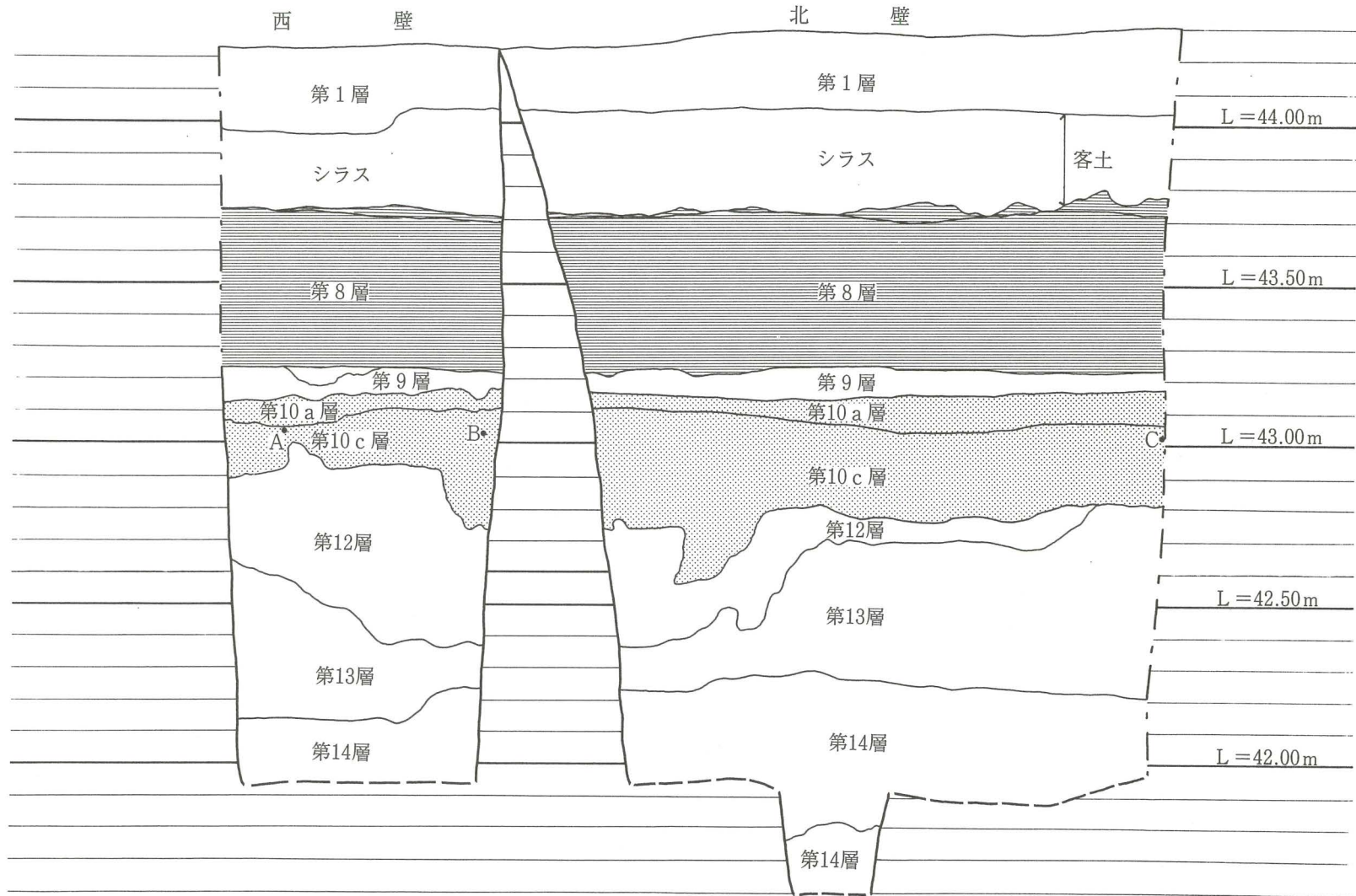
第9層と第10c層の間に、灰褐色粘質土層が約10cmほど堆積しており、この間層は、アカホヤ火山灰層（第10a層）の風化土壌と考えられた。

第10層以下は、第11層が欠落しているものの、第12層・第13層・第14層が確認された。

ここで、特記すべき点としては、第10a・12・13層の堆積状況を西北端で観察を行うと、同じような傾斜で傾いていることが確認される。推測の域を出ないが、第13層中、もしくは第13層上面で凹状の溝か何かがあり、それに第12層、第10a層が入り込むようにして堆積したと考えられる。

第14層は、3トレンチと同様に細分層が可能であり、下部にいくに従い黒味を少しずつ帯びているようである。

今回、縄文早期包含層が確認されず遺物も出土していないが、その代わりに、鬼界カルデラの噴出以前の地形的特徴が推測出来、昭和54年度の段階で確認された縄文早期の遺物を包含する層の面的な広がりを考える際に良い資料になると考えられる。 (文責 鎌田)



第16図 5 トレンチ西壁・北壁土層断面実測図 (s=1/20)

第Ⅳ章 詳細分布調査の成果について

周知の遺跡である鳥山遺跡内において、昭和54年度に行われた県営畑地帯総合土地改良事業により砂利農道として利用されていたものの一部が、舗装農道に改良に伴い、工事着工以前に5ヶ所のトレンチを設定し指宿市教育委員会を主体に詳細分布調査を行った。

詳細分布調査地である砂利敷きの農道はL字形を呈しており、総延長280mである。農道幅は4mであり調査地面積は約1,120㎡であり、そこに2×2mもしくは、2×1.5mのトレンチを100m前後の間隔を開け、5ヶ所設定し、遺物包含の状況の確認を行った。

調査地の周辺では、昭和54年度に鹿児島県教育庁文化課により確認調査が行われており、縄文時代早期から古墳時代までの良好な遺物包含層が面的に広がっていることが既に確認されていた。よって、今回、詳細分布調査を行う地点からも同様な遺物包含層を検出することができると考えられた。4㎡、または3㎡と非常に狭いトレンチ調査により、遺物・遺構を十二分に確認することが出来るか不安ではあったが、以下のような成果を上げることが出来た。

- (1) 昭和54年度段階では開聞岳を起源とする火山性噴出物堆積層である「紫コラ」・「青コラ」等を検出しているが、今回は上記の火山性噴出物堆積層を確認することが出来なかった。現地表面の砂利層と客土層の直下層から鑑みると、土地改良事業の際に重機等により攪乱・除去を行っていることが伺える。これによって、平安時代と古墳時代・弥生時代の遺物包含層が欠落するという非常に残念な結果となっていた。
- (2) 池田湖、鬼界カルデラ、桜島、始良カルデラ等を起源とする火山性噴出物堆積層を各トレンチより、その堆積状況は異なるものの確認することが出来た。

一次堆積の直下層上面の堆積状況の観察を行うことで、縄文時代後期、縄文時代早期、縄文時代草創期、旧石器時代の各時代の地形の傾斜や特徴の一部を垣間見ることが出来る。

- (3) 鬼界カルデラの火山性噴出物堆積層下にある縄文時代早期や後期旧石器時代の遺物包含層を確認することが出来、小牧台地や岩本台地と同様に良好な土壌が堆積していることが伺えた。遺物は出土することはなかったが、昭和54年の際に設定された周辺のトレンチの成果から、面的に遺物包含層が広がっていることは十分に考えられる。
- (4) 2トレンチの土層堆積層中で火山もしくは地震に伴うと考えられる液状化現象を確認することが出来た。縄文時代早期包含層（第12層）が鬼界カルデラを起源とする妻屋火砕流に噴砂に伴い立ち上がっている状況であった。
- (5) 3トレンチの第12層上面に第10層が不安定な形状を呈し落ち込んでおり（埋土？）、遺構としての性格は言及できないが、縄文時代早期の掘り込みの可能性も十分に考えられよう。
- (6) 4トレンチの北壁土層断面に、第16層（入戸火砕流）まで掘り込まれ、第13層を埋土とする掘り込みが検出された。その掘り込みの深さ等から落とし穴の可能性が考えられる。

（文責 鎌田）



詳細分布調査地点遠景（南側より）



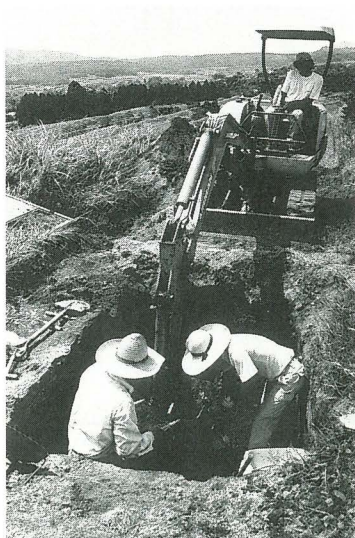
調査地点近景(埋め戻し終了の2トレンチを東側より)



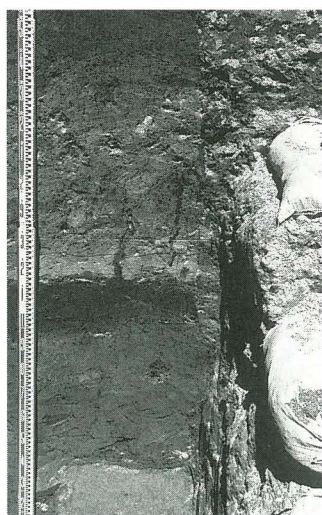
調査地点近景（5トレンチを西側より）



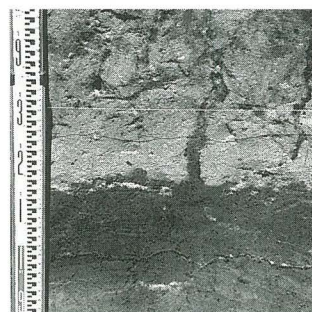
調査地点近景
（1トレンチを南側より、カメラ2トレンチ直上）



重機使用による
詳細分布調査の作業状況



2トレンチ西壁土層堆積状況



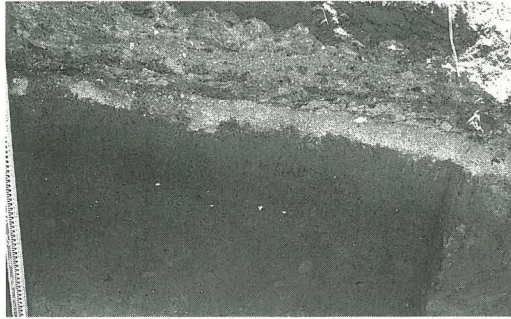
2トレンチ液状化現象(壁)
の噴き上がり状況
(第10c層に第12層が噴き上がり)



3 トレンチ 南壁土層堆積状況



4 トレンチ 遺構検出状況



4 トレンチ 東壁土層堆積状況



4 トレンチ検出遺構の埋土と立ち上がり状況



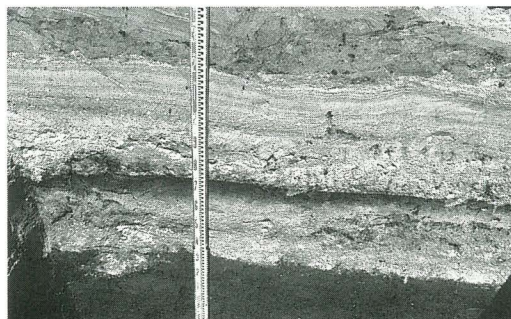
4 トレンチ 詳細分布調査作業状況(東側より)

— 5 トレンチ土層堆積 —
客土(シラス)表土層

- 第8層：池田湖起源火山性噴出物堆積層
- 第9層：黒色粘質土層アカホヤ風化土境
- 第10層：鬼界カルデラ起源火山性噴出物堆積層
- 第12層：茶褐色粘質土層
- 第13層：サツマ火山灰包含層
- 第14層：茶褐色粘質土層
- 第15層：始良カルデラ起源火山性噴出物堆積層



5 トレンチ 北壁土層堆積状況



5 トレンチ 北壁土層堆積状況

PL 4 3・4・5 トレンチ調査状況

報 告 書 抄 録

ふりがな	とりやまいせき							
書名	鳥山遺跡Ⅱ							
副書名	県営畑地帯農道網整備事業宮十石地区に伴う埋蔵文化財詳細分布調査							
巻次								
シリーズ名	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第18集							
編著者名	鎌田 洋 昭							
編集機関	指宿市教育委員会							
所在地	〒891-04 鹿児島県指宿市十町2424 TEL 0993-22-2111							
発行年月日	西暦1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
鳥山遺跡	鹿児島県指宿市	46210	2-21	-190,940.0	-37,503.0	19940912	18	砂利敷き農道の舗装化
				ゝ	ゝ	ゝ		
				-191,090.0	-37,703.0	19940926		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鳥山遺跡		縄文時代 不明	掘り込み 落とし穴			地震もしくは火山に伴う液状化現象		

《SUMMARY》

The Toriyama archaeological site is located on the plateau Iwamoto in Ibusuki-city, on the southern most tip of Kyusyu Island. The topographical features of Ibusuki-city were formed by the volcanic activities of the Aira coldera, Kikai coldera, Ikeda coldera and Mt.Kaimon. The base layer of the Toriyama site was formed about 24,000 years ago. Kikai coldera began volcanic activity about 6,400 years ago, Ikeda coldera began volcanic activity about 5,500 years ago. Mt.Kaimon began its first volcanic activity around 4,500 years ago.

In 1979, the Toriyama site was first excavated by the Board of Education of Kagoshima Prefecture, so the Toriyama site was first discovered. After the overall prefectural soil enrichment project was undertaken by Kagoshima. At the Toriyama site, layers of remains imply the Paleolithic era, the Jōmon age, the Kofun age, the Heian age and the Medieval Period.

In 1994, we excavated the Toriyama site means of 5 trenches improving on a gravel road(branch line No6) we obtained the following results.

(1) We could not discover the layers of remains implying the Kofun age, the Heian age and the Medieval Period. So, this means the layers of remains were destroyed by the machines, used in the overall soil enrichment project.

(2) We could discovered some volcanic layers which came from the Aira coldera, Kikai coldera and Ikeda coldera, in the trenches.

(3) We found some liquidification at trench No2. Liquidification is when a layer of the Earth which includes sand and subterranean water is shaken by an earthquake, the water pressure in this layer becomes too high, and the contents of the layer spout out of the dike which was formed by the earthquake.

(4) We found two holes at trench No3. They belonged to an early stage of the Jōmon age.

(5) We found a hole at the north wall of trench No5. It was dug from No16 layer, and it was into No13 layer. We think hole is likely to be a trup, belonging to the Jōmon age, because of it's depth.

(Original:Hiroaki Kamada, Proofreading:Trevor Fencott)

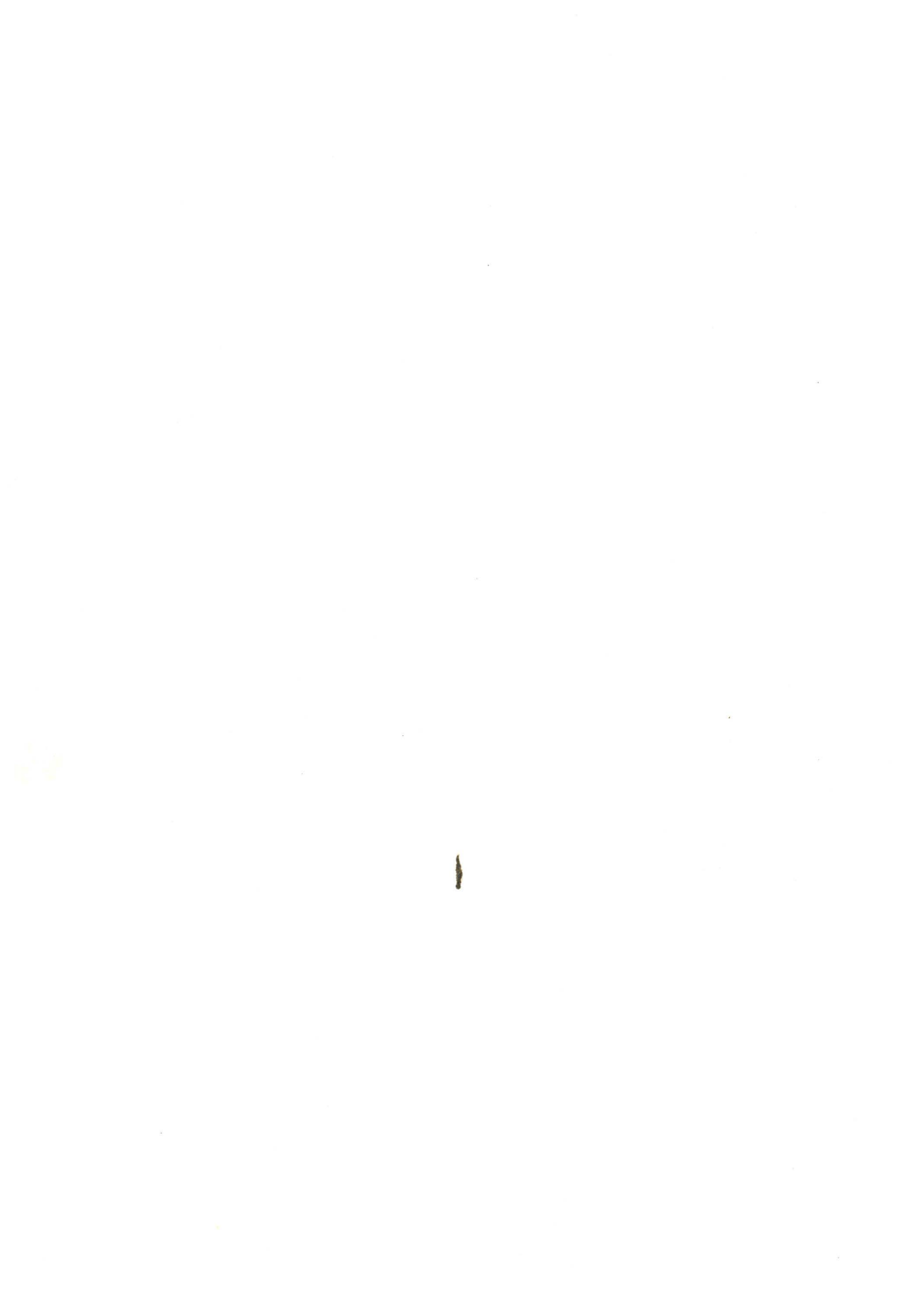
指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書

- | | | |
|------|----------------|-----------------------|
| 第1集 | 岩本遺跡 | (1978) 縄・弥・古 |
| 第2集 | 小牧第Ⅱ調査区 出水迫遺跡他 | (1979) 旧・縄・弥・古 |
| 第3集 | 橋牟礼川遺跡 | (1980) 縄・弥・古・平安・中世・近世 |
| 第4集 | 鳥山地区 | (1980) 旧・縄・弥・古・平安 |
| 第5集 | 宮ノ前遺跡 | (1981) 古・平安 |
| 第6集 | 横瀬遺跡 | (1982) 縄・弥・古・平安 |
| 第7集 | 尾長谷迫遺跡 | (1986) 弥・古・中世 |
| 第8集 | 中島ノ下遺跡 | (1990) 縄・弥・古・平安・中世・近世 |
| 第9集 | 橋牟礼川遺跡(Ⅱ) | (1991) 古・平安・中世 |
| 第10集 | 橋牟礼川遺跡Ⅲ | (1992) 古・平安・中世 |
| 第11集 | 橋牟礼川遺跡Ⅳ | (1992) 古・平安・中世 |
| 第12集 | 橋牟礼川遺跡Ⅴ | (1993) 古・平安・中世 |
| 第13集 | 南摺ヶ浜遺跡Ⅰ | (1993) 縄・古(土擴墓) |
| 第14集 | 南摺ヶ浜遺跡Ⅱ | (1993) 縄 |
| 第15集 | 南迫田遺跡 | (1994) 縄・古・平安・中世 |
| 第16集 | 橋牟礼川遺跡Ⅵ(概報) | (1994) 縄・弥・古・平安 |
| 第17集 | 橋牟礼川遺跡Ⅶ | (1994) 弥・古・中世 |
| 第18集 | 二反田川河川敷堤防跡 | (1995) 近世 |
| 第19集 | 鳥山遺跡Ⅱ | (1995) 旧・縄 |
| 第20集 | 橋牟礼川遺跡Ⅷ | (1995) 縄・弥・古・平安・中世 |

鳥山遺跡Ⅱ

平成7年3月

発行 鹿児島県指宿市教育委員会
指宿市十町2424
☎ 0993-22-2111
印刷所 中央印刷株式会社
鹿児島市春日町12番16号
☎ 0992-47-3300



**THE REPORT OF THE
TORIYAMA ARCHAEOLOGICAL SITE**

VOL. II

March 1995

CONTENT

- Chapter I ·····Pre-Excavation Development.
- Chapter II ·····Surroundings of the Site.
- Chapter III ·····Survey of each Trench
- Chapter IV ·····General View

SUMMARY

Reporter and Editor : H. Kamada. Published by The Board of Education of Ibusuki-city
Kagoshima Prefecture, Japan.